

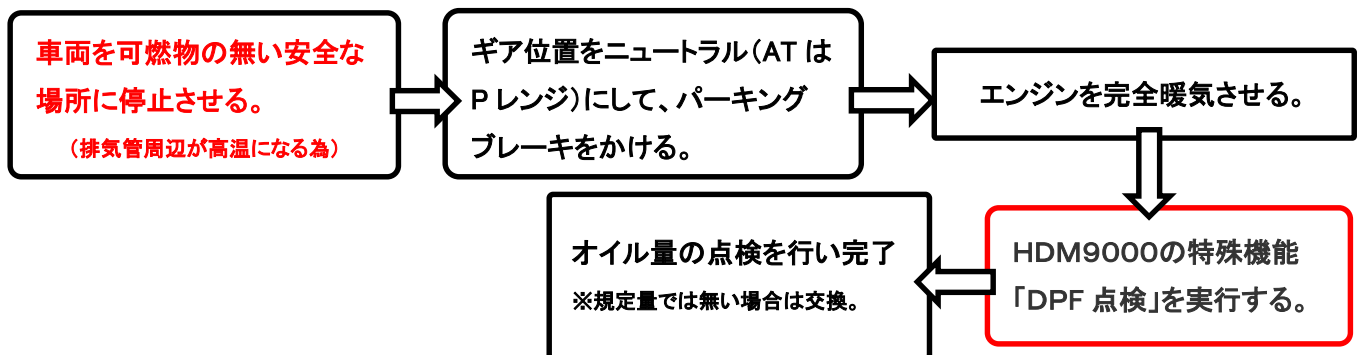
## 日立ダイアグノスティックツールHDM-9000操作ガイド いすゞ/DPD 強制再生(特殊機能選択時)

### 注意事項/必ずお読みください

- 実際の作業に当たっては必ず自動車メーカー発行の整備解説書で作業手順、作業上の注意点を参照の上、作業を行って下さい。
- 自動車メーカーにより予告なく車両の仕様が変更される為、本資料に掲載する機能が使用できない場合がございます。
- 「特殊機能」による DPD 強制再生は、DPD 関連の故障コード読取・消去関連データ表示、DPD データリセットを半自動的にスキャンツールが行います。よって、自動処理の出来ない故障コード(現在発生中により記憶されており点検整備によってしか消去されないもの等)やデータリセットが検出された場合、DPD 強制再生モードが中断され強制再生が出来ません。その際は通常メニューの「診断」・「車両選択」・「エンジン」・「故障コード読取」「作業サポート」を個別に選択して手動にて作業を行って下さい。

### 1. DPD 強制再生の流れ

- DPD フィルタに一定量のPMが堆積してPMを燃焼する必要がある場合、またはDPRフィルタの状態を確認する際、スキャンツールの作業サポート機能「DPR強制再生」を使用します。
- 下記の流れで「DPR強制再生」を実行します。



### 2. HDM9000操作手順(作業要領含む)

#### 【手順001/車両側の準備】

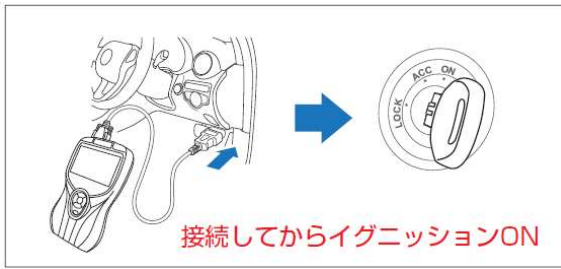
下記を行ってください。

- ① 周囲に可燃物が無く、換気が十分に行える安全な場所に車両を停止させてください。(DPR強制再生中は排気管周辺が高温になる為、特に排気管回りに可燃物が無いが、ご注意ください)
- ② シフトレバーがニュートラルであることを確認してください。(AT車はPレンジ)
- ③ パーキングブレーキをかけてください。
- ④ エンジンをアイドリング状態にしてください。尚、アイドリングコントロールノブによってエンジン回転数が上がっている場合は、左いっぱいに戻してエンジン回転数を下げてください。
- ⑤ アイドリングストップ装着車はアイドリングストップスイッチをOFF(解除)してください。
- ⑥ PTO装着車はPTO作動を停止させてください。

(次ページに続きます)

**【手順002:HDM-9000の車両への接続と特殊機能の起動】**

下図の様に HDM-9000 を車両側診断コネクタに接続して下さい。HDM-9000 が起動し、HDM9000 メニューが表示されましたら、カーソルを「特殊機能」に合わせて ENTER キーを押して下さい。



**【手順003:「DPF」の起動】**

「特殊機能」画面が表示されます。カーソルを「DPF」のアイコンに移動させ、ENTER キーを押します。



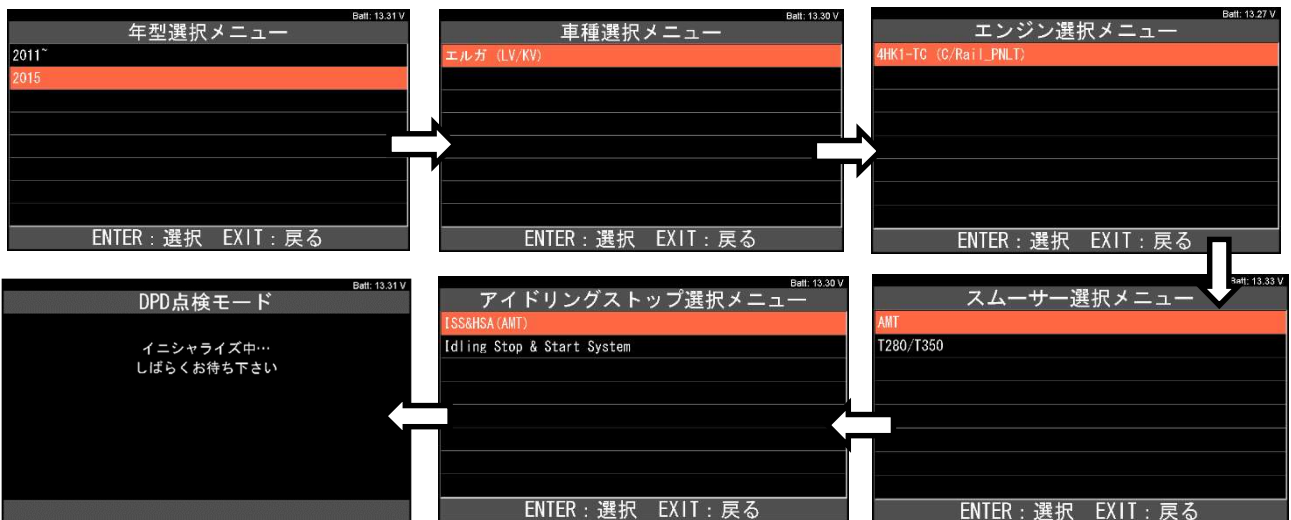
**【手順004:「いすゞ」⇒「DPF 点検」の選択】**

「DPF」画面が表示されます。カーソルを「いすゞ」に移動させた後、続けて「DPF 点検」にカーソルを移動させて ENTER キーを押して下さい。



**【手順005:車両の選択】**

車両の選択を行います。「年式選択メニュー」「車種選択メニュー」「エンジン選択メニュー」等の順番で画面が表示されますので、それぞれの画面で入庫車両に該当する項目をカーソルで選択して ENTER キーを押して下さい。



車両のミッションのタイプは助手席付近に張り付けられた ID プレートの「TRANS」に記載されているオプションコード(アルファベットの文字列)を、車載の取扱説明書で照会することで判別することが可能です。

(次ページに続きます)

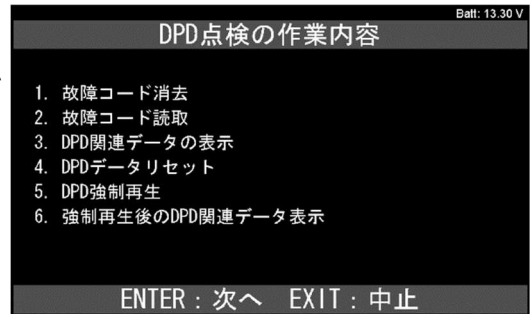
### 【手順006:「DPD 点検モード」の起動】

「DPD メニュー」画面が表示されます。カーソルを「DPD 点検モード」に移動させ、ENTER キーを押してください。



### 【手順007:作業内容の表示】

「DPD 点検の作業内容」画面が表示されます。ENTER キーを押してください。



### 【手順008:「DPD 点検モード」の開始】

「DPD 点検モード」画面が表示されます。ENTER キーを押してください。



### 【手順009:「DPD 関連データモニタ」の表示】

「DPD 関連データモニタ」画面が表示されます。確認後、ENTER キーを押してください。



### 【補足】

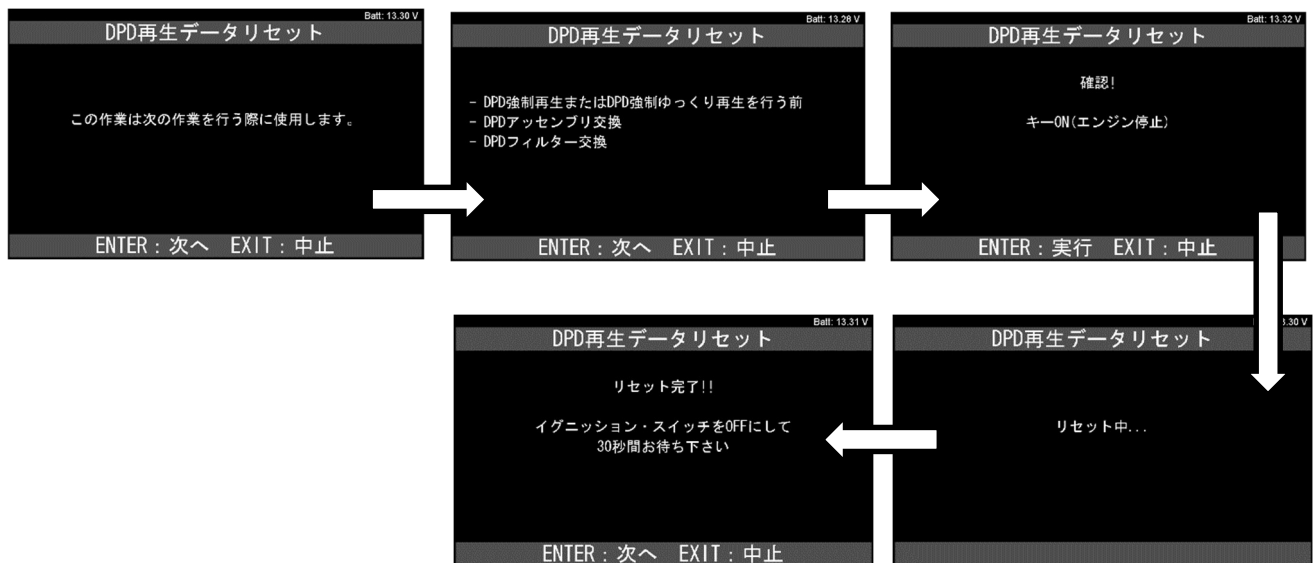
途中で消去出来ない故障コードが検知された場合、下の様な画面遷移となり「DPD 点検」が中断されます。この場合は、ENTER キーを押して一旦「DPD 点検」を終了させ、故障コードで示される個所の点検整備を行ってください。



(次ページに続きます)

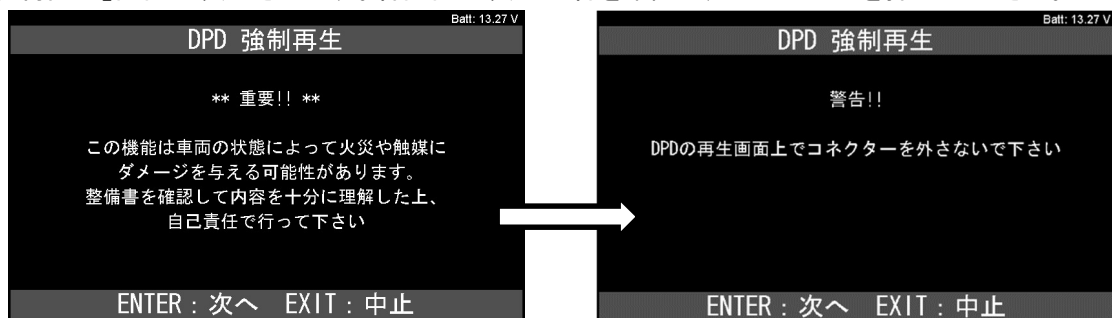
### 【手順010:「DPR 再生データリセット」の実行】

「DPD 再生データリセット」画面が表示されます。表示内容に沿って車両と HDM9000 を操作してください。



### 【手順011:「DPD 強制再生」の実行】

「DPD 強制再生」画面が表示されます。各画面の表示内容を確認し、ENTER キーを押してください。



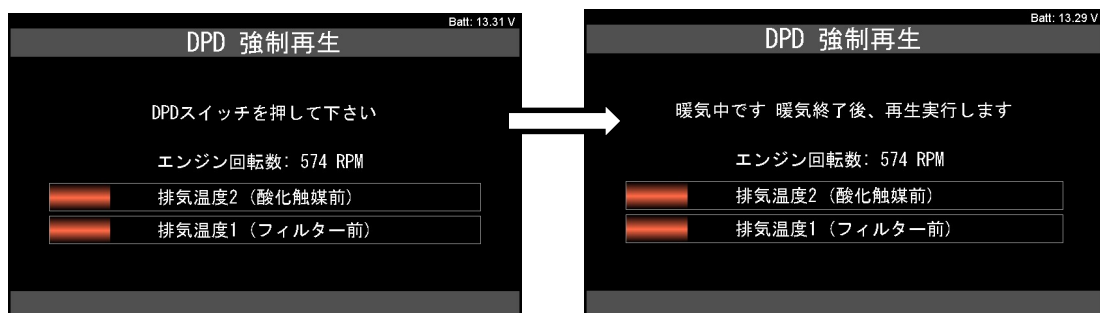
### 【手順012:エンジン回転数の確認】

エンジン回転数の確認画面が表示されます。



### 【手順013:「DPR 強制再生」の実行】

画面に「DPD スイッチを押してください」と表示されましたら車両側の DPD スイッチを押してください。排気温度が低いときは「暖気中です」と表示される場合があります。

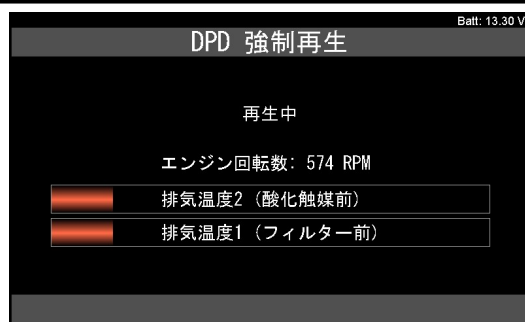


(次ページに続きます)

### 【手順014:「再生中」の表示】

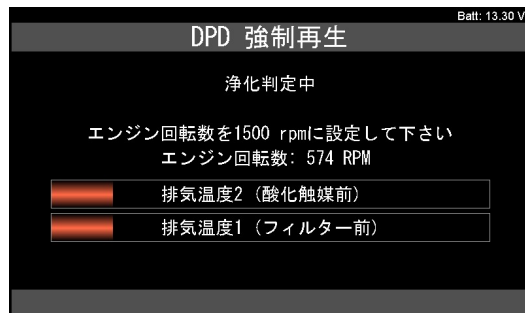
強制再生は30分程かかります。

※排気温度1(フィルター前)のゲージが8割以上  
 となった場合はエンジンを停止しDPD再生を  
 中止してください。



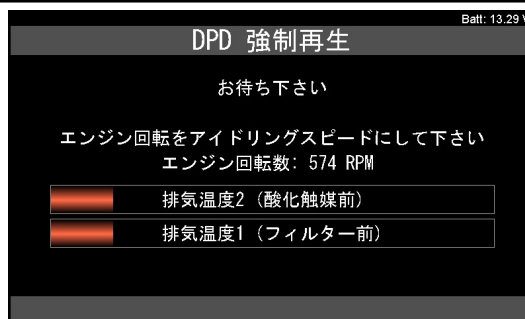
### 【手順015:「浄化判定」の開始】

「浄化判定中」が表示されましたら、画面の表示に従って  
 アクセルを踏んでエンジン回転数を上げてください。



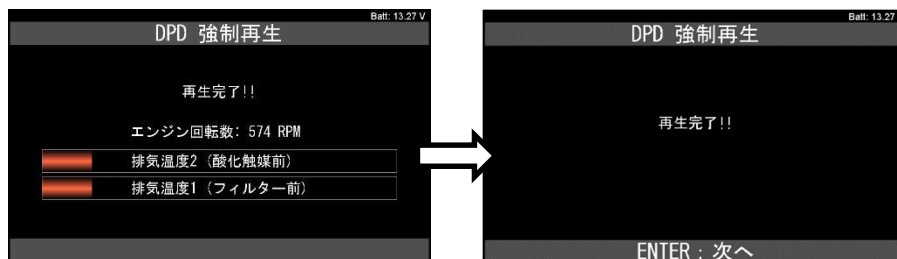
### 【手順016:アイドル回転での待機】

浄化判定が完了後、「エンジン回転をアイドリングスピード  
 にして下さい」と表示されます。アクセルペダルを離して  
 待機してください。



### 【手順017:「再生完了」の確認】

「再生完了」画面が表示されます。ENTER キーを押してください。



### 【手順018:DPD 関連データモニタの確認】

「DPD 関連データモニタ」画面が表示されます。「排気温度1(フィルタ前)」の値が整備解説書に記載された  
 温度以上であればアイドルコントロールで整備解説書に記載の回転数に上げて冷却を行ってください。



※右の表は参考例です。必ず個別の車両ごとの  
 整備解説書で値を確認してください。

【参考例/車両別エンジン回転数/排気温度】

車種	エンジン型式	排気温度1 (フィルタ前)	エンジン回転数 (RPM)
エルフ	4HL1 (NA)	180°C	1500
	4HK1-TC	150°C	1500
	4JJ1-TC	140°C	1500
フォワード	4HK1-TC	150°C	1500
	6HK1-TC	100°C	1000
ギガ	6UZ1-TC	120°C	1000
	6WG1-TC	100°C	1000
エルガ	6HK1-TC	100°C	1000
エルガミオ	6HK1-TC	100°C	1000
	4HK1-TC	150°C	1500

(次ページに続きます)

### 【手順019/排気差圧のチェック】

アクセルペダルを完全に踏み込んだ状態でデータモニタの「排気温度 1(フィルタ前)」の温度が整備解説書に記載された温度に達したとき、「排気差圧」のデータ表示が整備解説書の基準値以上か確認してください。

### 【手順020:「DPD 点検モード」の終了】

- ① 「DPD 関連データモニタ」画面での確認が完了されましたら ENTER キーを押してください。
- ② 「全ての作業が完了しました」が表示されましたら ENTER キーを押してください。
- ③ 車両側診断コネクタから HDM9000 を取り外してください。



### 【手順021/エンジンオイルのチェック】

DPD 強制ゆっくり再生を実行、もしくはエンジンオイルを点検して規定量では無い場合、オイル交換を行ってください。(完了)